

連合宮城2022春季生活闘争 「2022すべての働く者の底上げ集会」アピール（案）

われわれは本集会において、「未来をつくる。みんなでつくる。」のスローガンのもと、要求を掲げたすべての組合が、要求趣旨に沿った回答を引き出せるよう全力を挙げ、掲げたことを改めて確認した。

現在、すべての組合は、それぞれ置かれた状況が大きく異なる中で、自社だけでなく同じ産業で働く仲間や産業の未来をかけ、ともに闘う仲間の交渉を支えに、掲げた要求の実現に向けて懸命に交渉を追い上げている。

コロナ禍は今なお収束が見通せず、私たち労働者の雇用と生活への不安は高まるばかりである。この状況を打破するためには、経済成長や企業業績の後追いではなく、経済・社会の活力の原動力となる「人への投資」こそ必要である。すなわち、賃上げと働き方の改善によって働く者の能力・意欲の向上と所得増をはかり、消費拡大を通じて経済の好循環を実現することで希望ある未来をつくる、「未来づくり春闘」である。

一方で経営側は、コロナ禍による経営環境の激変により、先行き不透明感が一層強まる中、「事業の存続と雇用の維持」を最優先にすることなどを理由に「人への投資」については、慎重かつ厳しい態度を示し、交渉が難航している組合もある。われわれは、先行する組合の引き出した闘いの成果を、すべての働く者の賃上げと働き方の見直しに確実に波及させるため、次のとおり交渉支援を強化していく。

1. コロナ禍を乗り越えて「働くことを軸とする安心社会」の実現をめざすには、これまでの賃上げの流れを継続するのはもちろんのこと、分配構造の転換につながり得る賃上げと、誰もが安心・安全に働くことができる環境を実現していくことが極めて重要である。すべての働く者の生活不安、将来不安の払拭に向けて、「人への投資」と月例賃金の改善にこだわった交渉を粘り強く進め、最大限の回答を引き出し、賃上げの社会的広がりを拡大していく。
1. 先行して回答を引き出した組合は、「サプライチェーン全体で生み出した付加価値の適正分配」の観点から、グループや関係する会社の交渉環境が担保されるよう、経営者に対して最大限の配慮を求める。構成組織は、諸要求に対する回答内容を速やかに連合宮城に報告するとともに、その後続く中小組合の最大限の回答引き出し・早期解決に向けてサポートする。

2022 春季生活闘争はこれからの正念場である。今次闘争では日本の労使の真価が問われている。社会の閉塞感を打破するためにも、労使は答えを出すときである。

すべての労働者への「人への投資」こそが、職場の、企業の、そして日本の未来を創る。この断固たる決意をもって、組織の総力を結集し、最後の最後まで、ともに闘おう！

2022年 3月 23日
連合宮城 2022 春季生活闘争
2022すべての働く者の底上げ集会